



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

CITATION:

通信. 天界 1932, 12(137): 321-324

ISSUE DATE:

1932-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162246>

RIGHT:

通 信

倉敷天文臺創立五周年記念式報告

昭和六年十一月十五日午後〇時一分岡山驛に山本臺長を迎へ同車して、午後〇時七分同驛發、午後〇時三十分倉敷驛着。自動車に乗り倉敷天文臺に向ひ、午後一時三十分から、創立五周年記念式開かれ、水野主事開會の辭に次いで事業報告をなし、創立以來の事情を略述し、本年二月から、原名譽臺長の御厚意によつて、荒木健兒氏研究に従事されて居ることを紹介し、過去一ケ年間の參觀人、昭和五年十一月142人、十二月153人、昭和六年一月101人、二月401人、三月772人、四月1471人、五月2064人、六月103人、七月265人、八月87人、九月356人、十月345人、計6260人。この數は毎月第一、第三土曜日の公開日、其の他臨時公開日の參觀人を除きたるものなることを述べ、次に荒木氏研究事項と十月十日に於ける曆座談會で、倉敷知名の人々は、改曆には反對であるが是非必要ならば十三ヶ月案に賛成であつた旨を述べ、次に原名譽臺長の式辭、次に西岡永太郎氏滿洲支部幹事として「我がカフス釦」と題し祝辭を述べらる。釦には天の川と南斗星(射手座の、みちのち、と)と、定紋及び蓑龜とが鏤められて居る。天の川と南斗とは宇宙を意味し、蓑龜は縁毛龜で又の名を「キボウ」即ち希望、それに定紋を加へたるものであるとて、諧謔のうちに宇宙の廣大なること、人は希望に満ち、かつ家を忘るべからざること述べられ、次に山本博士は「現代天文學の尖端」の題下に有意義なる講演を試みられた。講演に先立ち

て荒木氏の研究事項に就いて批評せらる。

1. 太陽黒點の觀測は東に三澤氏あり、西に荒木氏あり、荒木氏は七月以來黒點の「スケッチ」百餘枚を、しかも時刻、經緯度を認められて居ることは多とすべく、2. 變光星 3. 流星の觀測に就いても其の勞を謝し、4. 黃道光及び對日照の觀測やスケッチは世界の天文學者も未だ組織的研究に手を着けて居ない際に、卒先して天文同好會黃道課員協同觀測に従事して居られ、續々有益なる研究發表をされつゝあるを感謝され、愈々講演に入り第一、寫眞レンズに依つて宇宙は漸次擴大されつゝあること。第二、數學物理學の進歩に連れ星の内部の構造が次第に明かにされつゝあること。第三、天文器械の發達は著しきもので、現に米國では500センチの反射望遠鏡が製作されつゝあるので、これが出來上れば天文學上に貢獻すること偉大なるものがあるであらうとて降壇された。水野主事閉會の辭を述べ、別室に陳列されてある新刊天文書を繙くもの、或は天文臺で反射望遠鏡に興がるものも多く、夜分は曇天の爲め天體觀測は出來なかつたが午後七時から天文幻燈會が催され、水野主事の説明によつて、聽衆は天に遊び、又古代からの望遠鏡に親しんだ。天文幻燈の種板は總べて天文同好會の製作にかゝるものであつた、これで意義ある記念式は幕を下した。因に山本博士は午後七時13分倉敷發下り列車で廣島文理科大學に向け出發された。(水野千里)

會議より歸りて

先生此の頃は色々御厄介になりました。

昨晚20時30分無事に歸宅致しました。

石山で諸先生、諸先輩の方々に初めてお目に掛り大變うれしうございました。

「花山を見なければ天文を談ずべからず」の一句を天界上で拜見して居ましたので、天文學の端の方を踏み進んで居ります私も是非一度、たつたの一回でいゝから花山天文臺を見學させて頂きたいものだと思へて居ましたが、はからずも今回の會議の後で見學のみならず、本館の大ドームの中で宮井さん、龜井さんのお世話で花山の精銳30 ㎜鏡をもつて、天界の變り種「土星」を200倍、400倍、600倍と各倍率で觀望させて頂き、只驚異あるのみでした。私は今迄に一度も望遠鏡（小型のものでさへ）と名の付くのを、のぞいた事ありませんので何人とも言へない感情に打たれて「快哉」を叫ぶ事さへ出来ませんでした。

其の外西の方から缺げかゝつた十八日の月も、アンドロメダ座の星霧も只胸を躍らしてのぞきました。

又本館の露臺へ13 ㎜反射鏡を出して色々の天體を漁り夜の次第に更けるのも知らない有様でした。

其の時福知山の佐々木さんがあはされたビントで小郡の山田さんが見られて、どうも見にくいと言れるのです。色々試験（他の天體を使用してビントをあはして代る代るのぞいたのです）してみても佐々木さんと坂元さんと私の三人は大體ビントがあつてゐるのです。が又、山田さんと龜井さんとはビントが似てゐるのです。龜井さんと山田さんは太陽の眼視觀測をされますので、そんなのだらう？と言つて居られました。

然し山田さんは「僕は皆さんより近眼ぞ」と大悲觀をして居られました。

龜井さんのお部屋で床に就きましたのは2時も大分過ぎた頃でした。

初めて山に登つて思ひ掛けなくもこんなに楽しい一夜を過す事の出来ましたのも、天文を好むからだと今更天文學が有難くなります。

色々御厄介になりながら、ゆつくりと御禮の御挨拶も申しませず失禮しまして何人とも申譯ありません。

二十日、二十一日、二十二日の三日間は私の終生わすれる事の出来ない記念すべき日になりました。

今度の會議に對する義務のためにも専心黃道光の觀測を遂行する心組です。

右いろいろと亂筆亂文をも顧みず厚く厚く御禮申上げます。

最後に先生初め家内の皆々様暑氣特に烈しき折柄御尊體をお大切になされます様お祈り申します。

謹 白

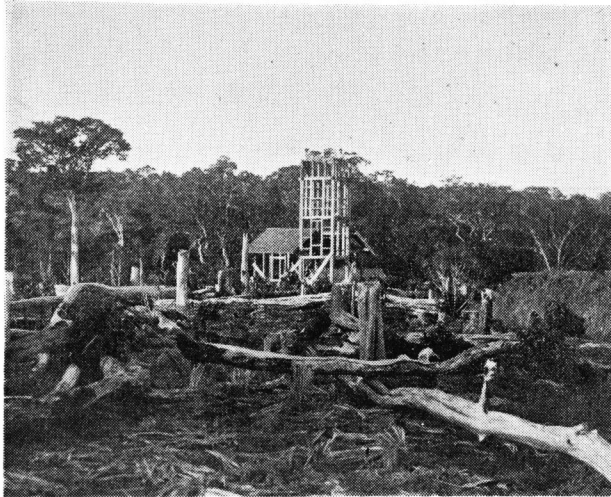
七月二十三日

廣瀬永治郎

ブラジルより通信

謹啓諸先生方には益御健祥にわたらせられ 御研究に御精進の由感謝に堪えない次第で御座います。さて當研究所は私達の勉強室として協力經營いたして居りましてその一科として天體の觀測を致して居ります。

最近貧弱ながら 私達の天文臺を自分等で森林から木を切り出し設計をし大工をし屋根葺きをし壁ぬりをして八分通り出來あがらせました。すつかり出來上つて望遠鏡を購入することが出來たら御會に入會の御許しを得て種々と御指導を仰ぐつもりで居りましたところ 突然昨日當地在住の與謝野脩氏から入會のすすめをうけましたので準備も出來て居りませんので 甚だ厚顏しい



この塔の高さは
地上二十七尺であ
ります

この場所は西經
五〇度五一分南緯
二〇度五〇分位の
ところでありませ
う
標高は四〇〇メ
ートル位でありま
す

ようでありましたがお手續を御願ひすることにいたしました。いづれ御手続き下さる事と存じますからどうか萬事御指導を御願ひ申し上げます。ブラジルは近年不況でありますため諸設備の費用には苦心をして居ります。働いては少しづつ購入するのですから思ふようにはかどりません。望遠鏡等は勿論日本からでないとブラジル中さがしてもありません。全く不便なところです。又それだけ楽しみは多いわけであります。

兎に角天文は入門でありまして只今星座をおぼえるのに 骨を折つておる始末であります。黄道光だけは毎晩非常に立派に見えますので、これはよく觀測する事が出來ます、觀測法を知らないのですから残念ながら學術的には只今の所觀測出來ません、いづれ會員としていただきましたら御教示を御願ひいたすつもりであります。太陽の黒點觀測は毎日規則正しく行ひ度いとおもつ

て居ります。これはブラジルの結霜が十三年目に週期をもつて來まして珈琲農業者の一大頭痛の種になつて居ります。昨年と今年は其の週期にあたつて居りまして昨年は大霜害をうけました。これとの関係がないかとおもひますので週期のはじまりから觀測したいとおもつております。

ブラジルの空は變に美しく澄みきつておりまして私達は幸福であると思ひます。

研究所棟上の寫眞をお目にかけます。完成いたしましたら更めてお送り申上げます。

昭和七年六月二十七日

南米ブラジル、サンパウロ州ノロエスケ線ルスサンピラ驛
アリアンサ第一移住地第四區
栗原自然科学研究所

大窪文秀、勝浦茂雄、神屋良子
京都帝國大學内
天文同好會御中

會員に關する報告

〔入 會〕

藪 本 弘	福井縣敦賀町北津内 細野方
牧 田 益 雄	東京府王子町堀ノ内 846
河 合 孝 一	大阪市東淀川區中津濱通4の59
柳 部 重 美	神戸市林田區御藏通7の122
淺 尾 金 一	廣島市横町16の1
杉 山 光 男	津山市東新町70
武 南 好 子	東京府杉並町阿佐ヶ谷348
河 原 辰 夫	福岡縣三井郡小郡村今朝丸2404の2

〔轉 居〕

里 村 美 榮	(元 大 阪)	大阪府泉北郡高師濱
分 部 坦	(神 戸 市)	湊區湊川町4の18
高 木 逸 平	(京 都 市)	右京區龍安寺山内大珠院境内
丸 山 金 彦	(臺 灣)	基隆市仙洞町100
木 戸 義 一	(元 靜 岡)	山梨縣都留中學校
邊 見 成 雄	(元 東 京)	東京市牛込區改代町25 古川忠三郎方
森 正 次	(元 神 戸)	和歌山縣南部町南道
影 山 辰 男	(横 濱 市)	横濱郵便局會計課
西 義 微	(元 京 都)	東京府杉並町阿佐ヶ谷883 西師傳方